



ゆうすい

嘉島西小学校 学校便り

令和5年9月25日
文責：校長 江上 知男



英語の学習頑張っています！

子どもたちから、よく「先生の得意な教科と苦手な教科は何ですか？」という質問を受けます。私は、苦々しい思いで「苦手な教科は英語です」と答えるのです…。そう、実は私は英語が大の苦手で、学校の入学試験や卒業においてとても苦労した経験があります。正直に言ってもものすごくネガティブ(消極的)な感情があります。

さて、先日本校の3年2組で、古閑先生が外国語活動(英語)の授業を公開しました。私はその様子を見て、すごうらやましくなりました。子どもたちが習いたての英語を使って、自信をもって生き生きと表現しているのです。そして、何より「英語を話すことが楽しくて仕方ない」という表情をしているのです。

ところで、小学校の英語の学習については、平成24年から5・6年生で「外国語活動」として必修化されました。令和2年には3年生から引き下げられ、5・6年生では「外国語科」という教科になりました。まだまだ歴史は浅いのです。導入の理由は、大きく以下の2点と言われます。

- ①**コミュニケーションの体験**：英語に慣れ親しみ、英語を体で覚えられる小学生期に取り入れることで、文法などの知識をあまり考えずに、遊びの中でコミュニケーション自体を楽しむため。
- ②**グローバル人材の育成**：語学を通じて異文化への理解や関心を高めることにつながるため、海外でも活躍できる人材を育てる基礎作りとして有効であり、異文化に対する柔軟性も身に付く。

今後、時代はますますグローバル化(世界との結びつきが強まること)が進展すると予想されます。英語力はさらに重要視されると予測します。本校の子どもたちが、私のような「英語に強い苦手意識を持つ人」にならないためにも、3年生以上の英語の時間を大切にしたいものです。

「勉強することが何の役に立つのですか？」

以前担任をしていたとき、子どもたちによく聞かれました。未熟だった私は「世の中に出て困らんためたい!」と答えながら、「つべこべ言わんで問題解きなさい!」とでも言ったのでしょうか…。保護者の皆さんなら、何と答えられますか。先日、教室を回っていると、プリントを解いているある子が「わかりません。先生、どうやったらわかるようになるんですか?」と質問してきました。私はハッとしました。「勉強をする理由」がそこに込められている気がしたからです。

勉強の意味については、「人の役に立つため」「将来役に立つスキルを磨くため」等々が言われます。でも、私は「どうやってわかるようになるかを学ぶため」だと思っております。社会に出たときに、人は様々な壁にぶつかります。それを克服するために、自分で予想したり、調べたり、人に聞いたり、まねしたりしながら答えを見つけていきます。その方法は誰も教えてくれませんので、それまでの学校生活等で経験した「わかるための方法」を活用するしかありません。…とすれば、学校生活は楽しいだけでなく、たくさんの悩みや困りごともあったほうが、将来の役に立つのかも知れません。子どもから質問を受けたとき、すぐに教えるのではなく「一緒に考えることを大事にしたい」と思っています。

2年3組の学級閉鎖が明けたと思ったら、明日から1年2組が学級閉鎖です。「インフルエンザ」が根強く残っています。各ご家庭におかれましても、手洗い・うがい等の予防に努めていただければと思います。6年生は、明後日から(27日)から1泊2日で長崎方面へ修学旅行に行きます。なるべく全員で行って欲しいと願っています。今週は持ちこたえて～！頼みます！